

和名：ウメ輪紋ウイルス

学名：*Plum pox virus*（略称：PPV）

英名：Sharka、plum pox

分布

イラン、インド、カザフスタン、中華人民共和国、イタリア、英国、チェコ、フランス、ブルガリア、米国、カナダ、アルゼンチン、チリ、エジプト、ナイジェリア等

※ 日本では一部地域で主にウメ樹で発生が確認されており、現在、根絶を目指し、緊急防除実施中である。

宿主植物

ウメ、モモ、スモモ、セイヨウスモモ、アンズ、ユスラウメ等

病原体

ポティウイルス属のひも状ウイルス。アブラムシによって非永続的に伝染し、また、接木伝染する。現在、世界で7系統が報告され、主なものはM系統及びD系統。日本で確認されているものはD系統。D系統は、M系統に比べ感染力は弱く、アブラムシによる伝染効率も低いとされている。

病徴及び被害

ウメ：葉では、退緑斑紋や輪紋等の症状を生じ、硬化葉で明瞭となる（図①、②）。花卉では、脈に沿って赤い条斑を生じることがある。果実では、表面に輪紋状にくぼんだ病斑を形成することがあるが、非常に軽い。

モモ：若い葉に葉脈透化、退緑斑紋等を生じるが（図③）、硬化葉では不明瞭となる。葉がねじれる場合もある。海外では、果実の表面に黄色の輪紋を生じることが報告されている。

セイヨウスモモ：葉に退緑斑紋や輪紋等の症状を生じる（図④）。海外では、果実の表面にあばた状のくぼんだ病斑を形成し、果肉は褐変し、核子には褐色斑点を生じ、このような果実は、成熟前にほとんど落下することが報告されている。

アンズ：葉に退緑斑紋や輪紋を現す（図⑤）。海外では果実に輪紋や輪紋状の斑紋を生じ、核子に明瞭な輪紋が現れることが報告されている。

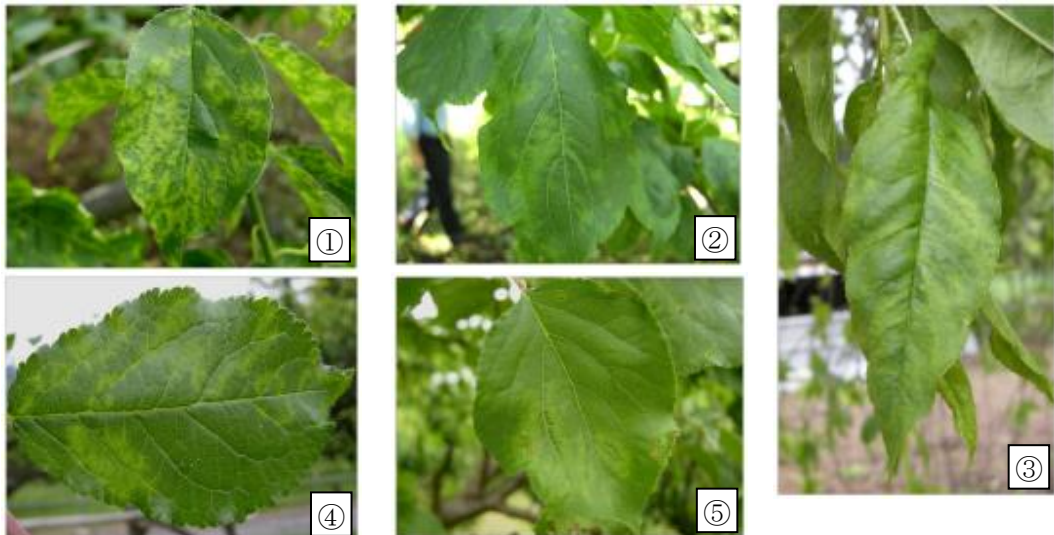


図 各植物の病徴

①及び②：ウメ、③：モモ、④：セイヨウスモモ、⑤：アンズ